

仕事と子育てで歩んで来た日々 そしてこれから



済生会山口総合病院 放射線部

| 横司正子



1 | Q 診療放射線技師を目指したきっかけ

A 高校生の頃、建築にあこがれていて、工学部を目指していました。しかし、なかなか成績が上がりず、親にも浪人はさせられないと言われていました。

高校3年生の秋ごろ学校の進学資料室で資格がある仕事を調べていました。そこで見つけたのが診療放射線技師という仕事でした。放射線は目に見えないからかっこいいかもという軽い考えでした。

(子供のころから父が時々病院に入院することがあり、診療放射線技師は夕方には帰れる仕事だからいいだろうという助言もありました。今となると大いなる誤算?!)



図1 職場の雰囲気(CT室にて)

2 | Q やりがいを感じるとき

A 検査が終わった後、患者さんから「ありがとう」と声をかけてもらったときです。検査が無事に終われた安堵感とともにたずさわってよかったと素直に感じます。また、マンモグラフィの撮影を担当しているとき「あなたに撮影してもらってよかった」と声をかけられたときです。ほかには、先生から「画像が役に立ったよ」という声をかけてもらえたときなどです。

3 | Q 私の職場遍歴

A 平成元年4月に今の職場に就職してからずっと同じ職場で働かせてもらっています。

秋頃から就職活動をして、今の病院の採用試験を受けました。当時女性技師は産休・育休の取得などでなかなか採用に二の足を踏む病院が多かった時代でした。たまたま女性技師が退職した後で採用試験も一人だけだったのでよかったです。病院の場所も知らなかったのに採用されました。運命だったのかもしれません。

4 | Q 診療放射線技師養成課程の学生時代

A 私たちの学年は70人くらいいました。その中の約2割が女性で圧倒的に男性の比率が多かったです。学校の同好会ではバドミントンをしていました。3年間寮生活でした。部屋は4畳半の畳ベッド付きの個室でした。キッ